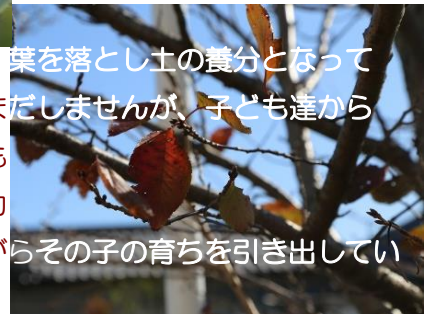
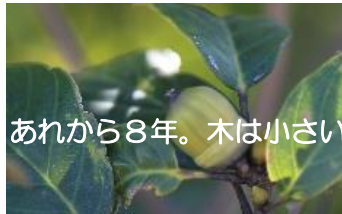


12月いずみだより

新園舎設立時に植えられた、園庭のドングリの木。あれから8年。木は小さいのですが毎年数個～数十個、ぷっくりとした小粒のドングリが見られています。

玄関では可憐なコスモスが見られる反面、4月に花を咲かせた桜の木は紅葉後、葉を落とし土の養分となって冬に備えます。今月は比較的暖かな日が続いたので、師走の押し迫った感じはまだしませんが、子ども達からクリスマスの話が聞かれると年末であることを実感致します。早いもので今年も残すところ後少しとなりました。日頃よりいずみ会の教育・保育のご理解ご協力頂き、有難うございます。一人ひとりを大事に、その子の気持ちに寄り添いながらその子の育ちを引き出していきたいと思っています。



R2. 11. 27

いずみこども園 いずみっこ

12月の行事

8日(火) 成道会

献花しますので、お花がありましたら
お願い致します

15日(火) 防災訓練

19日(土) 生活発表会

24日(木) もちつき

28日(月) 保育終了



『カサカサ』風が木々の葉を揺らして擦れ合った音、若しくは長く垂れた小枝の葉が揺れたのを見たのか、実によく見ていました。

安心感の形成から他者へ

特定の大人(保護者の方に守られ応答的な)の関わりの中で愛着形成された0歳児は、園では担当保育者との間で得た安心を基盤に外界と結びつこうとします。

1歳児は、大人や保育者に自分から積極的に関係を持ちたい時期です。

2歳児は、大人や保育者との関係を基盤にして仲間とも関係を持ちたい芽生えの時期です。

子どもは初期の仲間関係の中で、大人に助けられながら、(方法を教えられながら)仲間の中でも自分の自信と、仲間への信頼を積み重ねていきます。



0歳児 安心して興味のある物で遊びます。
繰り返し楽しめます。

『何これ?』いつもは無いよな?その場にいるお友達の姿を見て、触ったり覗いたり“思わず”の行動です。





0・1・2歳児は、ひとり遊び・平行遊びを楽しみます。

ひとりで遊びながらも（平行遊び）じっくりと自分の世界をつくり上げていきます。



2歳児

好きな子ができると、その子と一緒に同じことをしたがるようになり、好きなことが共通している子同士で遊ぶようになります。好きな気持ちが個性を作り、人を繋げていきます。



この場面で見られる5歳児の育ち

生き物への興味 ・生命の有無 ・命がなくなった後の対応方法 ・感謝の気持ちや可哀想という感情の芽生えへ
（慈悲への繋がり）・小さい子への優しさが育まれていることがわかります。

道徳性・規範意識の芽生え

言葉で伝えても（お墓が）理解できないことを察して、誘い掛けの言葉で（具体的な行動を提示）小さい子が可視化できるようにしていました。

・相手の気持ちに気付く ・共感
・方法を言葉と行動で提示 ・優しさ
常に生活や遊びの中で、自分ひとりの育ち
・集団だからこそ経験できる育ちがあります。何かをするにあたりいくつもの事を同時に考え組み立てながら行動しているのが私達です。数分の出来事ですが、多くの育ちが見られています。

園庭の砂場にて

3歳児のお友達が手に何かを持っていたところ、「あー。」の声と共に4・5歳児の数名に囲まれ「また、掘ってる！」と、詰め寄られていました。手にしていたのは、カブトムシ。どうやら昆虫採集のように自分の物として、持っていたいようでした。

「これは、お墓なんだよー。」「掘っちゃ駄目！」と言われ、後ずさりしながら困惑の表情を浮かべていました。すると、別の5歳児のお兄さんが「一緒に行こう。」の言葉掛けと共に視線を向けながら歩いて、お墓の場所まで促しました。「ここに、埋めるんだよ。」と、かがんでその場所を示し、その後一緒に埋めていました。しかし、まだ3歳児がその場を離れずにいると、「ここにいるよ。」と、埋めた所を手で撫でていました。“大丈夫！安心して。”の気持ちを込めながら伝えていることが感じられました。

やがて3歳児のお友達は、その場を後にしました。



集団遊び・・・オオカミさん今何時？